

新しい研究評価(REF)の導入に向けた動向／ 第6回研究評価(RAE2008)の概要について

5月27日、HEFCEは、新研究評価(REF: Research Excellence Framework)¹に関する関係機関への協議(Consultation)の結果及び今後の導入計画(タイム・テーブルを含む)について公表した。また、それに先立ち、4月24日、DIUSが概要を公表した。

また、7月1日、HEFCEは、計量書誌学的評価パイロット事業(2008年夏～2009年春)を開始した旨公表した。

HEFCsの研究費配分に適用される研究評価(RAE: Research Assessment Exercise)²は、従来高等教育機関から提出された資料に基づいてピア・レビューを主として実施されてきたが、ピア・レビューの膨大な負担が課題となっていたこと、及び使用していた計量的指標(研究収入やポスト数等)が研究の質と直結しづらかったことから、計量書誌学的指標(論文被引用数等)をできる限り用いることによりピア・レビューの負担軽減を図るべく、REFに切り替えるための検討が行われている。

また、従来のRAEとしては最後となる第6回研究評価(RAE2008)³は、2008年12月に結果が公表され、REFの実施までHEFCsの研究費配分に適用される予定である。

これらの動向について、5月30日に実施された木村大学評価・学位授与機構長とDr. Rama Thirunamachandran 元 HEFCE 研究・イノベーション・技能部長、古川 JSPS ロンドン センター長の意見交換時の情報に、ウェブ上の情報も参考にしてまとめた概要、以下のとおり。

新研究評価(REF)に関する関係機関への協議結果／今後の導入計画

DIUS の公表 (4月24日)

<http://nds.coi.gov.uk/environment/fullDetail.asp?ReleaseID=365908&NewsAreaID=2&NavigatedFromDepartment=False>

HEFCE の公表 (5月27日、29日)

http://www.hefce.ac.uk/pubs/circlets/2008/cl13_08/
<http://www.hefce.ac.uk/news/hefce/2008/refpilot.htm>

計量書誌学的評価パイロット事業の実施 (HEFCE 7月1日)

<http://www.hefce.ac.uk/news/hefce/2008/pilot.htm>

第6回研究評価(RAE2008)

<http://www.rae.ac.uk/>

1. 関係機関への協議

○2007年11月～2008年2月、REFに関する関係機関への協議(Consultation)を実施。
(高等教育機関及び専門分野団体等の関係機関から274件の回答があった。また、イングランドでは3回の説明会を開催し111機関の参加を得、スコットランドでも1回開催し、また関係機関との非公式な協議も行った。)

(1) HEFCEによる関係機関への協議 (2007年11月)

http://www.hefce.ac.uk/pubs/hefce/2007/07_34/#exec
(HEFCE説明会)
<http://www.hefce.ac.uk/research/ref/events/>
※提案内容に関するプレゼン資料もある

(提案の概要)

- ・科学系分野とその他の分野(人文・社会科学+数学+統計学)で、異なる評価方法を採用する。

分野	科学系分野	その他の分野 (人文・社会科学+数学+統計学)
評価方法	・計量書誌学的指標 ・計量的指標(研究収入、研究学生数等)	・簡易ピア・レビュー ・計量的指標(外部からの研究収入、研究学生数等)
専門家 パネル数	6	多数

- ・計量書誌学的指標による評価は、パイロット事業等を通じて新たに開発する。
- ・計量学的指標は、研究収入や学生数に加えて、利用者価値(User Value)等の新しい計量的指標の導入も検討する。
- ・専門家パネルは、全ての分野において指標に関する助言と選定を行い、その他の(非科学系)分野で簡易ピア・レビューを行う。

(2) HEFCEによる関係機関への協議の結果 (2008年5月27日)

<http://www.hefce.ac.uk/pubs/consult/outcomes/ref.asp>
※冒頭にエグゼクティブ・サマリーがある

2. 協議の結果を受けての修正

○REFに関する協議(Consultation)の結果、HEFCEとイノベーション・大学・技能相は、協議時の提案に対し2点修正を施すことを合意した。

- (1) 全ての分野を対象とした統一的な枠組みを構築する。その枠組みの中で、簡易ピア・レビューを用いつつ、計量書誌学的指標(bibliometric indicators)とその他の定量的指

標等を、各分野の質とインパクトを測るのに適するよう組み合わせる。科学系と人文・社会科学系で、要素の組み合わせ方を明確には区別しない。

- (2) より柔軟な枠組みを構築するため、及び計量書誌学的指標を十分に試行するために、制度設計のためのスケジュールを12か月延長する。

3. 現在の案の主な特徴

- (1) REFでは、全ての分野を対象とした統一的な枠組みを構築し、以下の要素を組み合わせ、評価を行う。分野の特性により様々な組み合わせが考えられる。

- ① 計量書誌学的指標 (bibliometric indicators)
- ② その他の定量的指標 (other quantitative indicators)
- ③ 簡易ピア・レビュー (simple peer review)
- ④ 補完的な定性的情報 (supplementary qualitative information)

例えば、以下のような組み合わせが考えられる。

- ・①と②が十分に適用可能な分野では、①と②だけの組み合わせとする。
 - ・①と②だけでは部分的な情報しか得られない分野では、③と④で補完する。
 - ・①と②では不十分な分野では、③と④等の組み合わせにする。
- ※研究のアプローチや各分野の特性を十分に反映した強固な評価を行うために、④により補完する。

- (2) 全ての分野で、専門家パネルが設置され以下の事項について助言を行う。(計量書誌学的指標等の各種指標は実際を必ずしも反映し得ないため、結果の信頼性を高めるために専門家の目は必須。)

- ① 各種指標の選定
- ② 選定した指標の解釈と組み合わせ
- ③ 全ての分野で等しく厳密な基準及び質の共通的な水準の確保

4. 今後の導入計画

○2014年より、全ての分野でREFに基づいて研究費を配分する。そのために、2013年に全ての分野で評価を実施する。

○2011年より、計量書誌学的指標が主要な評価要素となり得る分野で、REFに基づいて研究費を配分する。そのために、2010年に当該分野で、計量書誌学的指標を用いた全面的な評価を実施する。

○2008年、計量書誌学的評価パイロット事業を実施し、2009年夏に実施されるREFの主な事項の協議(Consultation)を通じて決定する。パイロット事業の成果は、RAE2008の結果とも比較する。

REF の導入に向けたタイム・テーブル

時 期	実施内容
2008 年 4 月 ～2009 年春	<ul style="list-style-type: none"> ・計量書誌学的評価パイロット事業を実施 ・全ての分野で、REF のその他の事項に関する提案を作成 ・提案の影響を評価(質と多様性、持続可能性と規制の重荷の観点で)
2008 年 12 月	<ul style="list-style-type: none"> ・RAE2008 の結果を公表
2009 年春～夏	<ul style="list-style-type: none"> ・REF の主な事項に関する関係機関への協議(Consultation) (計量書誌学的評価の運用面の詳細、その他の定量的指標の使用、分野設定、簡易ピア・レビューの手続き等について)
2009 年晩夏	<ul style="list-style-type: none"> ・REF の主な運用面の特徴を決定(使用する統計的・計量書誌学的データセット等について)
2010 年	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての分野について、専門家パネルを設置 ・適切な分野で、計量書誌学的評価を実施 ・各分野グループでの評価要素の選択と使用に関する関係機関への協議(Consultation)
2011 年～2012 年	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な分野で、HEFCE 研究費配分に計量書誌学的評価を適用
2012 年	<ul style="list-style-type: none"> ・簡易ピア・レビュー(2013 年実施)のためのデータを提出
2013 年	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての分野で、全面的な評価を実施(簡易ピア・レビューも)
2014 年	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての分野で、REF 結果に基づいて HEFCE 研究費を配分

5. 計量書誌学的評価パイロット事業の実施

7 月 1 日、HEFCE は、計量書誌学的評価パイロット事業(2008 年夏～2009 年春)を開始した旨公表した。

<http://www.hefce.ac.uk/news/hefce/2008/pilot.htm>

- パイロット事業の実施期間は、2008 年夏～2009 年春。
- パイロット事業では、少なくとも、2001 年 1 月～2007 年 12 月に発表された論文に対して、論文被引用数等のデータがある全ての分野を対象とする。
- パイロット事業の評価対象機関(下表の 22 機関)と協同して、パイロット事業での経験をその他の高等教育機関全体と共有する。
- パイロット事業の成果をどのように解釈し、REF でどのように活用するかについて、REF の各分野専門パネルから助言してもらう。その後、計量書誌学的評価の全面的な運用の提案を、REF の主な事項に関する協議(Consultation、2009 年春～夏)の中で行う。

計量書誌学的評価パイロット事業の評価対象機関(22 機関)

Bangor University
University of Bath
University of Birmingham
Bournemouth University
University of Cambridge
University of Durham
University of East Anglia
University of Glasgow
Imperial College London
Institute of Cancer Research
University of Leeds
London School of Hygiene and Tropical Medicine
University of Nottingham
University of Plymouth
University of Portsmouth
Queens University, Belfast
Robert Gordon University
Royal Veterinary College
University of Southampton
University of Stirling
University of Sussex
University College London

※<http://www.hefce.ac.uk/research/ref/pilot/inst/>

ここまでは、新しい研究評価(REF)について触れてきたが、ここからは、第 6 回研究評価(RAE2008)とこれまでの経緯について記す。

6. 第 6 回研究評価(RAE2008)に関する概要

- (1) RAE2008 は、基本的に従来の RAE と同様、ピア・レビューによる評価を基本とするが、いくつかの大きな変更点がある。

<http://www.rae.ac.uk/aboutus/changes.asp>

- ① RAE2008 の結果は、(従来の RAE で使用されていた 7 段階のスケールではなく)段階的なプロフィール(Graded Profile)として示す。

従来の階段方式では、境界付近の機関がわずかの差で明暗を分けていたり、同じランクの中ということで上位の境界と下位の境界付近の機関が同じように扱われるという結果になっていたが、これにより、従来の段階方式で段階の境界付近に位置した機関をより鮮明に捉えることができる。また、RAE2001 では、研究者の 80%が上位 3 ランク(5*、

5、4)、55%が上位 2 ランク(5*、5)に偏っていた。

例) 段階的なプロフィール

機関名	スタッフ数 (フルタイム換算)	研究活動のランク別割合				
		4*	3*	2*	1*	分類なし
X 大学	50	15	25	40	15	5
Y 大学	20	0	5	40	45	10

※4*は世界トップレベル、3*は(世界トップには及ばない)国際的レベル、2*は国際的に認知されているレベル、1*国内で認知されているレベル、分類なしは 1*に及ばないか評価基準に合致しないもの

※100%のパフォーマンスで 3*、さらに優秀な点を加算していき 4*になる

※<http://www.rae.ac.uk/aboutus/quality.asp>

<http://www.rae.ac.uk/pubs/2006/01/docs/annexes.pdf>

- ② 2 階層の専門家パネル構造とする。67 の評価単位(UOAs: Units Of Assessment)に対応した 67 の専門家サブ・パネルがあり、それらは 15 の専門家メイン・パネルのいずれかに属する。パネルの委員は、各分野の協会、利害関係機関等からの推薦により、HEFCs により指名された 1,000 名以上。

専門家パネルの構成と一覧: <http://www.rae.ac.uk/panels/>

- ③ 応用研究、実用研究、学際的研究も適正に評価されるように評価基準を定めた。

- ④ 異なる高等教育機関の学部同士(2 つ以上)が共同でデータを提出できる。これは、過去に RAE では他大学との密な研究連携が困難であるという批判があったための対応。共同で提出すると、それらの学部は一体としてプロフィールも共通でひとつ作成され、配分資金はフルタイム換算のカテゴリーA スタッフ数に応じて分配される。

<http://www.rae.ac.uk/aboutus/policies/multiple/>

<http://www.rae.ac.uk/aboutus/policies/joint/>

- (2) 評価基準は以下の 3 つに大別され、各分野の専門家パネルは、評価基準を事前に詳細に定めている。各項目への重み付けは、多くの分野で①が 80%、②が 10~15%、③が 5~10%だが、工学分野では③に特許取得、産学連携、スピンオフ、共同研究、国際的な連携等幅広い指標を加えており、重み付けも 30%まで高めている。また、社会科学分野では政策形成などが加えられている。

① 研究成果:

② 研究環境: 奨学金、研究収入、戦略・インフラ 等

③ 名誉的指標: Esteem indicators。研究関連の受賞歴、助成機関の委員歴 等

評価基準と手順: <http://www.rae.ac.uk/pubs/2006/01/>

※総論及び付属書に加え、分野別に詳細に規定

- (3) 2009年1月に、2009年8月からの配分基準について検討する。各学部へ配分される研究費は、予算の総額と RAE2008 の結果(プロフィール)をどのように比較するかによる。RAE についてはこれまでに議論が多く、HEFCE の配分決定に対して2度司法訴訟を起こされている。ただ、専門家パネルの決定は主観的なものなので、HEFCE の決定に対し意見する(Appeal)仕組みを構築する計画はない。
- (4) 2008年12月18日、RAE2008の結果が公表される予定(4月29日 HEFCE)。
<http://www.rae.ac.uk/pubs/2008/cl/01/>

7. 経緯 (RAE 及び REF 関連)

- 1986年、第1回の研究評価(RAE: Research Assessment Exercise)を実施。
- 以後、1989年に第2回、1992年に第3回、1996年に第4回、2001年に第5回を実施し、毎年の研究費は直近の RAE の結果に基づいて配分されてきた。
- RAE は、多くの批判を受けながらも、試行錯誤しながら、より質が高く、透明性が高く、公平な制度を模索しつつ、評価も制度及びその方法論も毎回かなり大幅な修正が行われてきた⁴⁵。
- 直近の RAE2001 では、173 の高等教育機関から約 2,600 件の申請があり、約 5 万人の研究者が審査に関与した。
- RAE2001 以後、2003年5月のロバーツ・レポート⁶⁷、2006年10月の人文・社会科学系への計量的指標の使用に関する専門家レポート⁸、2006年12月の高等教育の研究評価と助成の改革に関する協議⁹など、利害関係者との様々な協議等が幅広く行われた。
- 2006年12月の2006年度予算編成方針¹⁰で、RAE2008の次の研究評価から、計量的指標をできる限り用いる方針を提示。
- 2007年3月、REFに関する導入計画案¹¹を公表(HEFCE)。
- 2007年11月～2008年2月、REFに関する関係機関への協議(Consultation)を実施。
- 2008年4月、REFに関する関係機関への協議結果／今後の導入計画を公表(DIUS)。2008年5月、同じくHEFCEが公表。
- 2008年7月、計量書誌学的評価パイロット事業を開始(HEFCE)。

(参 考)

(1) RAE に関するその他の団体による協議(Consultation)等

- UUK report looks at the use of bibliometrics、UUK(2007年11月)
<http://openaccess.eprints.org/index.php?/archives/323-UUK-report-looks-at-the-use-of-bibliometrics.html>
- The use of bibliometrics to measure research quality in UK higher education institutions、発行元:UUK/ 調査実施:Evidence Ltd (2007年10月)

<http://bookshop.universitiesuk.ac.uk/downloads/bibliometrics.pdf>

○トムソン・ロイターと Kings Colleague (ロンドン) が REF に対する英研究界の懸案事項を調査
http://www.thomsonscientific.jp/news/press/pr_200805/nym152.shtml

(2) 計量書誌学的指標に関するレポート

※新研究評価(REF)に関する関係機関への協議(Consultation。2007年11月～2008年2月)で参考にされたもの

○Scoping study on the use of bibliometric analysis to measure the quality of research in UK higher education institutions (Center for Science and Technology Studies, University of Leiden)

http://www.hefce.ac.uk/pubs/rdreports/2007/rd18_07/rd18_07.pdf

○Bibliometric analysis of interdisciplinary research (Evidence Ltd)

http://www.hefce.ac.uk/pubs/rdreports/2007/rd19%5F07/rd19_07.pdf

○A brief guide to bibliometrics, Anthony F J van Raan, Center for Science and Technology Studies, Leiden University

<http://www.hefce.ac.uk/research/ref/events/londonhefce100108.ppt>

○Bibliometric indicators, research evaluation and funding parameters, Henk F Moed, Centre for Science and Technology Studies, Leiden University

<http://www.hefce.ac.uk/research/ref/events/hf.ppt>

(参考資料)

¹ 新研究評価(REF: Research Excellent Framework)

<http://www.hefce.ac.uk/research/ref/>

² 研究評価(RAE: Research Assessment Exercise)。下記サイトには、RAE1992、RAE1996、RAE2001、RAE2008 へのリンクもある。

<http://www.hefce.ac.uk/research/ref/reform/rae.asp>

³ 第6回研究評価(RAE2008)

<http://www.rae.ac.uk/>

⁴ 英国における研究評価: 高等教育機関における RAE の現状と課題について(研究評価の方法論) 隅田 英子、p.571-577、Vol.49、情報の科学と技術 (1999年11月)

<http://ci.nii.ac.jp/naid/110002829593/>

http://nels.nii.ac.jp/els/110002829593.pdf?id=ART0003224276&type=pdf&lang=jp&host=cinii&order_no=&ppv_type=0&lang_sw=&no=1218044048&cp=

⁵ 英国における研究評価 - 公的研究助成にみる評価“Value for Money”と“Selectivity”、No.54、調査資料、科学技術政策研究所 (1998年5月)

<http://www.nistep.go.jp/achiev/abs/jpn/mat054j/mat054aj.html>

⁶ ロバーツ・レポート(Review of Research Assessment, Report by Sir Gareth Roberts to the

UK funding bodies) (2003年5月)。HEFCsからの依頼に基づき、RAE2001の結果を受けた今後の研究評価のあり方について広く実施したレビュー

<http://www.ra-review.ac.uk/>

- ⁷ 英国の高等教育助成機関による研究評価制度レビュー、NO.909、NEDO 海外レポート (2003年6月)。ロバーツ・レポートに関するレポート

<http://www.nedo.go.jp/kankobutsu/report/909/909-11.pdf>

- ⁸ 人文・社会科学系への計量的指標の使用に関する専門家グループ (Expert Group on Research Metrics for Arts and Humanities Disciplines)、AHRC、HEFCE (2006年10月)

<http://www.hefce.ac.uk/research/ref/group/>

- ⁹ 高等教育の研究評価と助成の改革に関する協議 (Consultation on the Reform of Higher Education Research Assessment and Funding)、DfES、HEFCE (2006年12月)

<http://www.dcsf.gov.uk/consultations/conResults.cfm?consultationId=1404>

- ¹⁰ 2006年度予算編成方針 (Pre-Budget Report 2006) (2006年12月)。RAE2008の次の研究評価では、計量的指標をできる限り用いる方針を示した

http://www.hm-treasury.gov.uk/pre_budget_report/prebud_pbr06/report/prebud_pbr06_repindex.cfm

<http://www.hefce.ac.uk/news/hefce/2006/rae.htm>

- ¹¹ REFに関する導入計画案、HEFCE (2007年3月)。タイム・テーブルも示されている。

http://www.hefce.ac.uk/pubs/circlets/2007/cl06_07/